

5 (3) 瑞浪化石ワークショップ

(1) 仮説

フィールドに出かけ、化石標本採集を行い、さらに採集した化石の同定、化石標本の作製とその観察を行うことにより、理科の研究の楽しさの一部を体験させることで科学への興味、関心を高めることができる。

(2) 方法

ア 地域(または県下)の理科教育における位置づけととねらい

化石などに関心を持っている生徒が採集、クリーニング、同定を系統立てて体験できる研修をねらいとした。

イ 連携先・対象と規模

連携先：名古屋大学環境科学研究科准教授 氏原 温 先生

瑞浪市立化石博物館 安藤 祐介 先生

対象と規模：合計26名（生徒22名、教員4名）

生徒：明和3名、丹羽2名、春日井1名

阿久比3名、中村1名、昭和4名

国府1名、西春4名、一宮3名

教員：丹羽1名、阿久比1名、一宮2名



土・砂の採集

ウ 内容

(7) 事業の概要と現状の分析

午前、砂岩からの化石採集、砂岩が風化した土、砂の採集、午後、採集した土や砂から化石の分離、砂岩中の化石のクリーニング、採取した化石の同定を行った。



化石採集の様子

(イ) 事業の取組

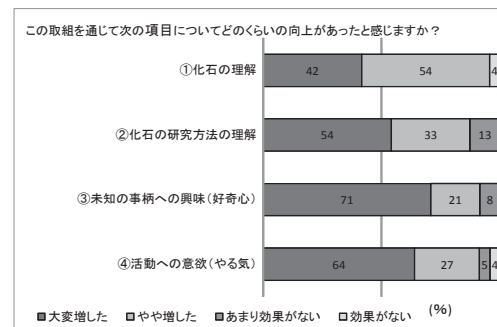
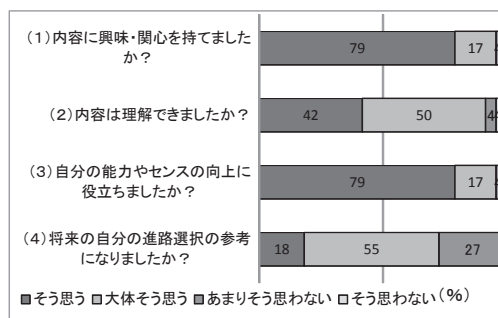
実施日時 10月19日（日）

実施場所 化石採集 瑞浪市松ヶ瀬 ： 標本作製 瑞浪市立化石博物館

(3) 検証

ア 生徒の事後アンケートから

アンケート結果や生徒の感想から、生徒にとって興味・関心が高まったことがわかる。



イ 生徒の感想から

- ・微化石の混じった砂、土を顕微鏡で観察するのは新しいやり方でおもしろかった。
- ・専門の先生の詳しい話を聞くことができ、興味を持ってました。時間が足りなかったのが少し残念でした。
- ・小学生の時に一度だけ化石採集をしましたが、そのときよりもっと化石に興味を持つことができました。参加できて良かったです。

ウ 今後の事業に向けて

当日の天候、良い化石が採集できるかできないかなど運にも左右されるが、実体験は興味関心を高めるのに良い方法であるので、今後も続けていきたい。